

長崎通信

no.

84

●発行 長崎の証言の会 ●事務局 〒852 長崎市宝栄町18-4 ☎0958(62)8725

1986

8・4



希望 上野誠画伯、1964年作。
生きとし生けるものの背後から生まれ、
はばたくもの、希望を象徴する白鳩。

目をとじると
あの日が見える
耳をすますと
あの声がきこえる
あの夏の日
光と騒音だけがつらぬいた瞬間
すべてのものが消え去った
あの忘れようとしても
忘れきれないできごとを
また この手で
よみがえらそうとしている
ああ あの日

あの夏の日

長崎県西彼杵郡三和中学三年

寺田真紀

みんなは何を考えたがら
消えていったの？
今 私たちに
何を語ろうとしているのか
(学年文集『三和』一九
八四年三月発行より)

●長崎通信 84 内容

- 2、3面 原水禁世界大会の分裂
- 4、5面 私の8・9平和授業
- 6面 今田斐男(小)、末永浩(中)
- 7面 私の八・九(築城、田吉)
- 8、11面 海外通信(表文台、据石)
- 12面 通信/北から南から
- 事務局通信、カンパ御礼

原水禁運動と証言運動

四十一年目の原爆の日を前に、
原水禁運動再分裂という、きびし
い試験の時が訪れています。

長崎の証言の会は発足の時から
「草の根の被爆者・市民を核とす
る原水禁運動の再構築、国民的統
一」を追求し続けてきました。

今回は「分裂でなく一部の脱落
だ」という意見もあるが、「長崎
のひろば」だけでも統一し、希望
の灯をともし続けたいものです。

被団協、地婦連、日青協、生協
連、宗平協等の市民団体の姿勢に
もきびしい反省が必要でしょう。

もし禁・協の「接着剤」などと
いう及び腰でなく、「被爆者・市
民を核とした国民的大同団結」め
ざして全力投球しておれば、流れ
は変わったのではないでしょう。

原水禁運動のこの原点と伝統に
立って、証言運動の仲間たちが、
更に意気高く奮闘されるよう祈念し
てやみません。事務局強化のため
に寄せられた皆様の貴重なご支援
に深く感謝しつつ。(鎌田定夫)

証言運動前進と在韓被爆者救援へ

— 全国から三十余万円の寄金集まる —

先般の会員拡大と事務局維持カ
ンパ、『イルボンサラム』によ
る在韓被爆者救援募金の訴えに對
して、各地から沢山の厚志が寄
せられ、運営委・事務局一同大変
勇気づけられ、感謝しています。
以下は5月以降の中間報告です。

●証言の会維持カンパ

(5月)7月末現在、敬称略
「北海道」大畑暢之(二千元)
「青森」菊地 渥(三千元)「千
葉」潮陽耕一(千元)「東京」大
内要三(五千元)相川キミ子(二
千元)石川逸子(千元)荒井信一
(二千元)松尾繁(二千元)本間
美智子(四千六三〇円)宮坂和子
(二千元)米田ひさ(三千元)河
野良彦(二千元)「神奈川」妹尾
美美子・朝子・一郎(六千元)北
村敏広(五千元)「新潟」植田
伊佐秋(千元)「静岡」杉山秀夫
(千元)
「愛知」外山雄三(五千元)「三
重」森本信広(三千元)「京都」

筒井茅乃(四三一五円)「大阪」
天王寺中学校(六百元)本田光徳
「六千元」中塚明(三千元)橋本
幸一(千元)「福岡」伊藤晋(千
円)吉崎幸恵(五千元)多田定次
(千元)河野吉照(千元)森重人
(三千元)「佐賀」古川ムツエ
(五千元)「熊本」岩崎影代志(千
円)「宮崎」夏田太(五千元)
「長崎」西久海(千元)山川剛
(四百円)田島治太夫(二千元)
緒方毅(五千元)西川豊(千元)
浜崎均(二二〇円)都野弥生(四
百元)伊藤正宜(六千元)荒川秀
男(千元)荒木千智子(千四百円)
(谷口稜嘩(三千元)川崎きくえ
(五千元)日比野正己(千元)錦
戸陽子(三千元)道野シゲ子(二
千元)小曾根ユキ(千元)鮫島千
秋(九千元)北村豊幸(二千元)
吉山マサコ(一万元)伊丹洋太郎
(千元)田吉チエ(二千元)鎌田
定夫(三千元)鎌田信子(二千元)
(近藤照子(千元)
(合計二六万五千九六五円)

●在韓被爆者救援カンパ

(五月以降、敬称略)

藤本静(三千元)田吉チエ(一万
円)大内要三(五千元)橋本直樹
(五千元)川原竹一(三千元)亀
田昭宏・河原俊一・二本柳潔・久
保田慎吾・小野田雅一・小笠原智
・清水春山・上井隆志・豊川敏・
桶渡真司・前川雅美(計、五千元)
(豊中第五中学三年三組(二一
九三元)川原竹一(二千元)河北
満智子(五千元)筒井茅乃(四三
一五円)(合計、四万四五〇八円)

●寄贈図書

大牟田の空襲(大牟田の空襲を記
録する会)『木は生きかえった』
(大川悦生、新日本出版社)『軍
縮問題資料』5、8月号(宇都宮
軍縮研究室)『原爆体験の思想化
— 反原爆論集』(石田忠、未来社
『原爆被爆者等面接記録』(広島
平和文化センター)『原爆関係蔵書
目録II(広島原爆被災学術資料セ
ンター)ナガサキ・平和のあゆみ
(長崎平和推進協会)ヒロシマナ
ガサキを考える(石川逸子)ヒ
ロシマ・ナガサキ9(田中憲助)

●核実験抗議坐り込み

6月29日 米・英 一三六回
7月20日 アメリカ 一三七回
7月27日 アメリカ 一三八回

●事務局日誌

6月23日 長崎原爆被災者協議会
結成三〇周年祝賀会。
7月4日 原水禁禁止長崎連絡会議
7月19日 平和年シンポジウム「チェ
ルノブイリ原発事故と日本」
7月21日 母子像の会事務局会議
7月26日 長崎平和推進協シンポ
「世界平和と長崎の役割」
7月31日 証言の会運営委員会

●編集後記

暑い夏がやってきたが、今年の
原水禁世界大会は遂に分裂した。
やりきれぬ思いだが、私たちの証
言の会はこれからも運動体として
のまとまりを持ちながら活動を続
けていきたい。多くの「声」をお
寄せください。次号は10月20日発
行予定です。事務局維持カンパと
会員拡大にもお力を！(浜崎均)

86年7月26日 西日本新聞

いま一度、原点へ

目前に迫る核の危機

イデオロギーを超え

市民団体中心に結集

夏を生きる被爆者たち



長崎の証言の会事務局長 広瀬方人

暑い夏がつづいている。日ごろ健康には自信のある私でもぐったりして、動きまわるのがおっくうでたまらない。「健康に自信がある」と言ったが、この数年、被爆者検診のたびに白血球が三千を割って、もう一度精密検査をうけるはめになっている。しかし、自覚症状が何もないから、自分では健康だと思っている。それよりも、はるかに爆心地近くにいた近距離被爆者の人たちは、どんなに疲れがひどいだろうと思う。

ことしの三月、原爆青年乙女の会会長の谷口稜嶺さんが、勤めていたNTTをやめた。谷口さんは私と同じ五十六才である。「どうしてやめたの。まだ定年でもないのに」と私がきくと、「今のままではもう身体がもてない」と、谷口さんは少し淋しそうな顔で答えた。

もっとも熱心な被爆の語り部である谷口さんには、勤務が終つてから連日のように、修学旅行の生徒たちに被爆体験を語り出かけるのは、かなり重労働にちがいない。

原水禁運動

その原点と明日

被爆者にとって、原水爆禁止、核の廃絶はイデオロギーや理屈ではない。自ら体験したあの原爆を、もう二度とうけるのはごめんだ、という、あの日のむごい体験を拒否することから出発して、二度と人類の上に核兵器が使用され

てはならないという、自己をこえた強い普遍的願望になっているのだ。

一九五六年八月、長崎で第二回原水爆禁止世界大会が開かれることになった時、市議会も労組も、婦人会や市民グループも、純粋な気持ちで参加していた。自己や自己の属するグループの利害を優先して考えてはいなかった。みんな真剣で生き生きしていた。その中でも、被爆者がこの大会に打ちこむ姿勢は、誰の目にもわかるほどひどくむきであった。

西町被爆者の会の会長であった川崎一郎さんは、大会が近づくと自分の病弱なことを忘れて、夢中で大会の準備に走りまわった。そして、大い大会の当日には高熱を出してぶったおれ、床の中でうなっていた。その川崎さんも今はもうこの世にいない。

ことし原水爆禁止世界大会を統一して開くことができなかったと知ったら、川崎さんはどんなに嘆くだろう。あまり大きな声で発言をしない長崎の被爆者たちの心の中、の淋しさとかやさを、大会の

運営に当たってきた人たちはどれだけわかっていただろう。

それでもことし八月五日と六日に、第十三回高校生平和集会が昨年の長崎の集会をうけて広島で行われる。彼らはたとえ大人たちの原水禁大会が統一して行われなくても、早くから着実に準備をすすめていた。この若い純な魂が傷つけられることなく、素直にのびていくことをねがっている。(長崎市 長崎南高教諭)

証言の会

運営委員会員会云報生口

七月三十一日夜もたれた運営委員会には九名が出席、五月以降の会運営を点検したあと、次の諸項目について協議しました。

- (一) 非核平和都市宣言を求める署名運動の進め方、(二) 原水禁大会への参加と図書販売、(三) 『証言』二〇号編集企画、(四) 次の運営委員会、「原水禁運動と証言運動」座談会を証言の会と地元記者との二本立て企画する。

八月三〇日(土)の予定。

8・9 平和祈念集会に向けて

長崎市戸町小学校教諭 今田 斐文用

戸町小学校では、経営方針の中の現職教育の分野として「平和教育の推進」につとめている。各学年担任から一、二名の部員で構成する「平和教育部会」を設け、毎月九日を「平和の日」と定め、各月のテーマに従って「指導資料」を作成、全職員に配布し、平和学習の参考にしてもらっている。

各月のテーマを例示すると、四月「みんなで明るく仲よしのクラスを作ろう」、五月「交通事故や災害から生命を守ろう」、六月は「平和の歌をみんなで歌おう」、七月「みんなで平和と幸福を祈ろう」、八月「平和をわたしたちの手で作ろう」などである。

一学期には、学校行事として、六月に原爆関係の映画会、七月は七夕集会以平和への願いをこめ、八月の平和記念集会へとつないでいく。

今年の映画会は、一・二年「お

こりじぞう」、三・四年「八・九長崎」「原爆の長崎」、五・六年「人間を返せ」を視聴した。

七夕集会以、短冊に平和の願いを書いて笹に結んだが、長崎市が世界平和祈念旬間の事業の一環として募集している標語へ応募するため、各学級で平和学習をしてから作品を書くことにしている。

この集会では各学年が音楽や演劇を上演するが、今年は六年がムツちゃんを基にした「朝はきていたのに」を上演、平和の尊さを訴え、最後に全員で「七夕の歌」と「世界の子どもよ」を合唱した。

八月九日の平和祈念集会は、九時から九時四十五分まで一・三年が体育館で集会、その間、四・六年は学級で平和学習。十時からは交代で四・六年が体育館で集会をするにしている。集会の内容は、低学年と高学年で少し異なるがおよそ次の通りである。

開会、「青い空は」の合唱、校長先生の話、被爆教師の体験談、平和の誓い、黙禱、「花でかざって」の合唱、閉会。

一学期の終りまでに、各学級では一人一羽ずつ鶴を折り、全校で千羽鶴を作る。また、各学級で一枚、平和の標語を大きな模造紙に書き、体育館の二階から垂らす。被爆のパネル写真を会場の壁面に展示するなどの準備をする。

八月九日の登校の時に、家庭の花壇から花を一本ずつ持ち寄り、ステージに飾る。

私の八月九日

長崎市式見中学校教諭 木、永 進

長崎市内の小・中学校のほとんどで、八月九日は学校登校日である。長崎市教育局委員会は昭和五十二年七月十七日付けで「原爆記念日の取り扱いについて」という通知文書を出している。それによると、「原爆記念日（八月九日）又は世界平和祈念旬間中の一日を夏季休業中の学校登校日」とする。

集会が終わって、児童会役員の子どもたちが担当の教師と、千羽鶴・花束を平和公園に届け、平和祈念像や慰霊碑、無縁仏納骨堂などに献納することになっている。

（長崎市）

目的は、「原爆記念日の意義を理解させ、平和な郷土作りに対する長崎市民としての自覚を深めるとともに、世界の恒久平和に貢献しようとする態度を育成する」。

指導内容は、①原爆記念日の意義、②原爆の被害、「原爆による被害の状況を知らせて核兵器の脅威と戦争のもつ非人道性を深く感

得させ、平和を一層愛する気持ちを育てる」。③被爆者たちの現状「被爆者の中には今なお多くの人が原爆症に悩んでいることを知らせ、それらの方々に対するいたわりや励ましの気持ちを表すとともに強く戦争を否定する心情を育てる」。④平和への願い。

指導上の留意点として、①教基法第8条及び第9条の趣旨にもとることがないこと。②平和に関する指導資料の趣旨に沿うこと。③児童・生徒の発達段階を十分考慮して指導内容を選択すること。

一九八五年八月九日は、私は一人で中国を旅行していた。一九八四年度には五年ぶりに学級担任をして、八月九日のために平和祈念開会生徒たちが作った。

三年二組のテーマは「核兵器廃絶と平和を求めて」で、六つの班に分かれ、①原爆はなぜ造られ投下されたか、②長崎原爆の惨状（写真）、③長崎原爆の惨状（熱線・爆風・放射線）、④原爆が投下された時の式見の状況、当時の食物、⑤原爆を落とす理由、もし

戦争が起きたらどうするか、⑥今も苦しむ被爆者、被爆二世は？

三年二組三八人中に被爆二世は十人で、「もし戦争が起きたらどうするか？」というアンケートに対して、兵隊に行く（〇人）、兵隊を拒否する（五人）、反対運動をおこす（三〇人）、自殺する（三人）と答えた。

私は一九八四年度の八月九日の学級指導の時間には、私と家族の被爆体験を話した。そのあとで生徒に平和学習の感想をつづらせ、学級の記録にのせた。

「平和祈念開会をして、今迄知らなかったことをたくさん知ることができた」（女）

「先生の原爆体験を聞いていて被害を受けた人がどんなに苦しみもがき、死んでいったかと思うと、かわいそうになった」（男）

「核兵器をなくすため、力を合わせ、なんとかしなくてはならない」（男）

今年は全校集会で私や家族の被害体験を話すことになるだろう。生活指導もきちんとせよ、昨年末でしていた父母の学校参観やその

文書を出すことも必要はない、というのが校長の態度であった。

韓国にも反核の芽が

表 文、口

「ごぶさたしています。こちらでは、平和運動に関してはとくに伝えすべき件もありませんでしたが、このほど韓国社会党非核地帯化研究委員会が発足しました。

歳七十三にもなって、今さら柄にもない委員長なんてちょっとおかしいが、反核不毛の地に何かのお役に立ちたいと思って、有能な後継者があらわれるまで当分引きうけることにしました。

もちろん党の政治には関係せず、に文学者の立場から反核運動のみにたずさわるつもりです。冊子刊行も計画していますが、資料難、執筆が難から、文字通り独りずもうです。よい資料、原稿など送っていただけたら、大変助かります。

去る四月頃、学園から反核の声が聞こえた日、反核三年間、孤軍奮闘したかいあって、小さな実を結びはじめたと思うと、感慨無量

でした。学生たちが叫ぶ「核兵器撤廃せよ」のあの声の中には、私のひそかな声もまじっているのだと思わず大声をあげたのです。

この研究委員会も今やと満足したばかりですが、後援者があられ資金ができれば、ヒロシマ・ナガサキ被爆写真展示会もしたいと思っています。

何より必要なのは世界各国のうごきなどの情報です。さしあたり『証言』なども参考にしたい。昨年『証言』送ったとお便りをうけましたが、私の手もとには届いていません。私の「反核宣言」を同封します。訳して掲載していただければ、日韓反核交流のために役に立つかもしれません。李煥成さんにも送りました。

みなさまのご健闘をお祈りします。（ソウル特別市）

私の「八・九」



長崎市 葉木城 昭平



長崎に生まれ、長崎に育ち、長崎に住みついて、六十年間、長崎の街の移り変りをみてきた。

世界最初の核戦争にまきこまれた私にとって、あの「八・九」の意味を問われたとき、即座には答えられない重いものがある。

一くちで答えるなら、第二の誕生日とでもいえるのではないか。一九歳の夏であつたが、その十九年前が肉体的誕生であるなら、この日は精神の誕生ともいふべきか。勿論、かろうじて地獄の底からはいずりあがった誕生である。

先日長崎中部講堂の長崎師範慰霊碑に行つたが、左横に原爆死した五〇余名の名が記されてお

り、何度行つても同じ名である。ほとんどは下級生であるが、同級生も数人おり、机を並べて勉強した友人の名を忘れることができない。同じ学徒動員で、被爆した時

いうが、もし部屋の配当が彼と入れかわつていたら当然、運命は彼と入れかわつていたのである。私はこうして微細な運命によって生き残つたが、実は何もかもひっくり返つたのである。戦争とにもこの世に生まれ、徹底的な軍国主義教育の中で育ち、この日

境に体にケロイドの烙印をもち成人し、今度は教壇から平和を守る立場から子供たちを教へてきた。

八・九の登校日を唯一の特設平和教育の日と定めつけたのは十六年前だつたが、実はその前から個人的には原爆・戦争反対の教育はして来た。とくに吉田、鳩山、岸内閣の頃より表面化していた改憲の動きには反発し、この子らが大人になつた頃には、真に平和を求める日本人にして見せると決意した。

戦前のあの徹底した皇国主義教育を思うとき、今の私たちの行っている教育は一体何だったのかと反省させられてしまう。しかし、私たちが体験を通して得たものを次の世代へ引きつがなかつたら、戦争への道に急速に落ちていくだろう。現在でも、すぐそばで軍艦や魚雷が作られていることを思うと、つくづく時代の流れに恐怖すら覚える。

「八・九」といっても、何か言葉だけが浮き上つて、長崎の街中をひとり歩きしている感じがしてならない。子供たちの感想文にも「昔はひどかった」「こわい」「平和でなくてはいい」「また原爆の話か」などから一歩も外に出ない。

私たち教師は、この「八・九」をどう指導していけばよいのか。まだわからない状態で、各学校での行事だけはこなしている。

五島の反核の灯、健在

青方町 山川 剛

五島の青い空と海を青いまま子どもたちに引き継がせようと、

八月九日午後四時、みなと広場に集まります。(第8回目) 熱い思いを結集しましょう。六月に初参加の多田さんからお手紙がきました。「子を持って本当に平和に暮したいと思うようになりました。あすにでも子供たちが奪われそうな危機感があります。反核・反戦を皆で叫べば何とかなるのでは」

生きるという事

長崎市 田吉チエ

『証言』18号拝見いたしました。真剣な皆様のお姿に頭が下ります。がんばって下さいませ。私、老体となつて心はあれども体力なしと自分ながらこの坂道を歩きながら考えます。杖をついて老人らしくしておればよいものを、若い人にゆづつてのんびりせよと、忠告して下さつた方がありました。でも生きていく以上、自分の足で歩き目で見ることが生きるといふものです。

証言の会の成長を切にお祈りいたします。同封の金子、わずかですが資金の一部に加えて下さい。(長崎市)

「八・九」の日

— アメリカからの通信 —

ロサンゼルス 堀石 和



ご多忙のところ、資料をお届け下さりありがとうございます。来たる八月九日の当地での記念式典で、APANAグループリーダーのケント・ウォン氏が趣味のギター演奏をされますので、園田鉄美氏の「あなたの名前を」を演奏していただくようお願いしています。レネ・シェーファー氏の詩「はるかかなたから」その他を私も語りたいと思います。

米国の「社会的責任のための医師連合」という、核凍結に熱心な医師のグループ(全米約五万人)のウイスコンシン・ラ・クロスグループによる平和行事に昨年招かれましたが、都合つかず、シカゴ在住のヒバクシャが列席して下さいました。本年もご案内いただき幸い何とか都合がとれました。米国だけでなく海外ではともすればヒロシマ・デーだけになりま

すので、私は記念式典をヒロシマ・ナガサキデーにすべきと強く訴え、実行して下さいることになりました。

昨年列席したヒバクシャが、自らの体験を約五千名の参加者に伝え、少しはヒバクシャのことも理解されたと思います。

ことは再度私からも自分の体験を語り、現在の核兵器の巨大な犠牲者には日本人だけでなく、米

国、オーストラリアの兵士たちも犠牲となったことなどもだんだん知られてきました。開催資金づくりのために昨年こられた被爆者の方々が教えて帰られた折り鶴や紙人形をオークションに出すそうで、私もひまひまに短冊の台紙にいろいろはって、毛筆で「世界人類が平和でありますように」と記したものを作ってい

ます。別にちぎり絵やはり絵なども仕上げるつもりです。

長崎平和の母子像建立のためにご尽力のこと、心より感謝し、わずかですが同封します。

私も長年、協会の仕事につくしてきましたが、主人の健康のこともあり、南加支部長は辞任させて頂いたことになりました。副会長の方は名前だけです。留任し、無理のないスケジュールで努力するつもりです。

ネバーアゲイン・キャン

ペンのビデオを完成

ドナルド・レイスロップ

昨夏、みなさまとお会いし、またこのたびナガサキ国際フォーラムの写真を送っていただき、重ねて御礼申し上げます。

私達は日本、中国、香港、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド、フィジーの七カ国で二四〇枚以上の写真を撮りました。どこに行つても平和のために活動している素晴らしい



人たちに会いました。私たちは勇気づけられまして、帰国後は、私たちの旅と太平洋の目を通してみた平和への関心についてのスライド・ショウのために四百時間以上をかけた。みんなこのショウを喜んでくれました。私達は行くことのできない土地の方々のためにビデオテープを作りました。一本を長崎市本原三五・二三、永井学生センターのホセ・アギラル神父にお送りしました。音楽や音響効果もたっぷり入っており四百枚以上のスライドを含む五十三分のテープです。対話の中で私たちは、大いなるアメリカ人が知っているよりほんの多くのことを、そしてアメリカの政府が何もかも吹き飛ばしてしまう準備をしているのをなぜせめねばならないのかを表現しようと試みました。みなさまによろしく。(ニューヨーク州カナニン市、ネバーアゲイン・キャン・ペン主宰)

大阪から長崎の証人たちへ



捕虜収容所の話から



田島治太夫さんへの手紙

大阪・松原三三三組

梶原 徹

修学旅行の時は聞きとりをさせていたで、本当にありがたうございます。

ぼくは田島さんに会うまでは厳しくて近寄りにくいようなこわい人だと思っていました。しかし実際に会ってみると、やさしい感じで話しかけやすかったです。

ところで、田島さんの話の内容からは、ぼくたちは大きなものを学ぶことができました。

一つはまず、田島さんが捕虜収容所で外国人捕虜の人たちといっしょに生活しているうちに、お互いの壁というか、違和感というものがなくなってしまうと、普通に話したりすることができるようになったということです。ぼくはそ

の話は、ぼくたちの学校生活の中に重なるような気がします。

たとえば、ぼくたちのなかまの中には、いろいろな差別を受ける子がいいます。ぼくはそういう子といっしょに学校生活を送っていくうちに、やはり違和感などが感じられなくなりました。差別をなくすためには、いっしょに生活していかなければならないことを知りました。

また、「自由」ということでもいろいろ学びました。自分の好きなことばかりしてもよいというのは決して真の自由ではない。田島さんは自分が不自由だからこそ自由の尊さがわかる、松井比呂美ちゃん（身体障害をもつ同級生）もそうだと書いておられました。ぼくは今まで自分に十分に与えられている自由を自分自身のためだけに使い、比呂美ちゃんのことには気にもかけていませんでした。しかし、田島さんの話を聞いて、自分のまちがいを知りました。

また、原爆・戦争の恐ろしさも

学びました。田島さんの軍隊の中での体験や原爆投下直後の話を聞かせていただいたことが本当によかったと思います。そして話の中で学んだことを、これからの学校生活や人生の中に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

（松原市立松原第三中学、指導・美佐田和之）

在韓被爆者のために



下平作江さんへの手紙

大阪・豊中市立第五中学校

3の3平和委員会

はじめまして。私は豊中市立第五中学校三十三期生、三年三組の平和委員会です。一年、二年では部落差別や朝鮮の人たちへの差別について真剣に取り組んできました。そして去年の夏休みの平和登校では、佐伯敏子さんの被爆体験を聞かせていただき、日本の被害者としての立場を学びました。その後書いた感想文の中には、アメリカがいくつとも悪いとかいう感想文がいくつもありました。

私達はあまり日本は悪くないと思っていました。しかし、その後の学習会で日本の加害者としての立場を知り、戦争は最大の「差別」だということがわかりました。私達は修学旅行を通して、もっと深く考えていかなければならないと思いました。

下平さんが小学校の時、被爆された城山小学校のことについては二年の時、国語の授業の「友よ」という林京子さんの作品で知りました。一回も行ったことのない場所ですが、すぐ身近かな場所のように思います。今度の修学旅行の時には、城山小学校の話も聞かせていただけたらと思います。

同封しました二一九三円のお金は、クラスの仲間でごづかいの一部を出しあい集めたものです。「イルボンサラムへ」を読み、私達も少しはお役に立ちたくて、こしですが在韓被爆者のためにお使い下さい。また、下平さんに質問を送りたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

（豊中市）

会員通信——北から南から……

不安な雲行きを憂う



石川 藤本 静

朝日新聞で「在韓被爆者四十一」年の連載が始まり、「あ、これはイルボンサラムへだ」とすぐに思いました。六月、私は岩波から出た『終りなき旅』を読み、遠くノモンハンや満州に置き去りにされた開拓農民の惨状、そして原爆に拉く人々の哀しみ、経済大国といわれる日本に繁栄があるとすれば、これらの人々の犠牲の上に咲いた徒花なのではないか。

総選挙では保守党が圧勝してしまいました。福祉予算を削って軍拡に走る路線に火がつけたよう不安です。そして反核の集会も二つにわかれるような雲行きです。この上とも難題がもうあがって来そうで心配でなりません。どうぞ皆様ご自愛の上で活躍下さい。些少ですが、事務局常設カンパを

お納め下さい。

（松任市）

長崎物語第3作完成

東京都 大川 悦生

証言18号に東友会の本と石川逸子さんの詩集ご紹介下さってありがとうございました。

川崎つたえさんの話、感動的でした。以前、長崎放送で一郎さんの話をまとめましたので。

東友会後援会設立にむけていよいよ活動が始まりますが、その中で『証言』の読者・賛助会員もふやしたいと思っています。

また、八月までの間に何回か原爆・戦争・平和をめぐって講演があり、各地の先生たちに長崎の証言の会を紹介するつもりです。

三月十六・十八日、二度目の取材に行った木の話、『木は生きかえった』（新日本出版）としてすでに書き終り、まもなく挿絵もできてきます。木を語ることによっ

て子どもたちの新たな関心と呼び起すことができればと考えています。これは『ながさきのふしぎな女の子』『ながさきの子うま』につぐ、長崎物語第3作です。

なお、東友会事務局の後援会担当が永坂昭さん。世話人は四谷の長崎寮で行っています。

夏にかけてますますご多忙と思いますが、皆さんのご健闘を祈ります。（世田谷区 児童文学者）

八・一五の沈黙に



水俣市 砂田 明

石川逸子さんから贈られた詩集『千鳥ヶ淵へ行きまたか』を、私は一気に、それもいつしか発声しつづ一巻読み通した。一語も遺しえなかった小さき者の死をみつめて、その痛切なまなざしを読む者の胸中に浮かび上らせる……これは石井礼道子さんにもある女性詩人に特有の霊媒的な能力だろう。私は即座に決意した。この詩集を吟誦しよう。作者からは許可と共にカンパまで届けられ

入会いたします

（水俣市）

東京都 相川キミ子

早速に貴会発行の諸誌をご送付下さいましてありがとうございます。つきましては会費四千円と経少ですがカンパ二千円、合計六千円を振込させていただきましたので、よろしくお願い申し上げます。またいづれ改めて詳しくお便りさせていただきますと存じます。取急ぎ御礼まで。（東京都中野区）

長崎反核平和日記

(4月・7月)

4月11日 平和会談の「長崎の平和の願いコーナー」が一般公開され、記念講演会が開かれた。
4月14日 アラブ諸国駐日大使らが長崎市を親善訪問。
4月26日 長崎市は「平和公園」を建設中の米国ミネアポリス市へ被爆石を送ることにした。
5月3日 ネバーアゲイン・キャンペーン一行が研修合宿のため長崎入りした。
三日から五日まで、九州地区大学生協連の平和学習フィールドワークが長崎市内で行われた。
5月6日 くらしと平和を守る婦人の会が小冊子「何か忘れていませんか」を発行した。
5月8日 ソ連原発事故でIPPNW会長から市丸長大教授に、原発は危険だとの電報が届く。
5月9日 県衛生研究所はソ連原発事故で放出された高数値の放射能を検出したが、人体に影響はないと発表した。

原爆検査センターにコンピュータのオンライン端末装置が設置されることになった。
5月11日 被爆者手帳友の会の代表者会で政府と電力会社に原発の撤去を求める大会宣言採択。
5月14日 生協コープながさが「平和冊子「虹のやくそく」」を発刊
5月18日 国際平和年第二回シンポジウム「核廃絶と非核都市宣言」が開かれた。
5月20日 長崎市教委は小学生用のカラーイラスト低・高学年用を作成、五四校全部に配布。
雨水からヨウ素一三一を検出。
5月22日 在韓被爆者の渡日治療第二陣が長崎原爆病院に入院。
5月25日 くらしと平和を守る婦人の会は下平作江さんを迎えて第 回母に聞く被爆体験の会を開いた。
5月29日 米国ウェスレヤン大学合唱団が原爆資料館を見学。
5月31日 第4回原爆問題シンポジウム「反核の旅報告集」を開催。
6月1日 長崎市平和推進協会は国際文化会館の案内書「ながさきの声を聞いてください」を発行

6月13日 IPPNWのB・ラウン会長一行が来崎。視察懇談し被爆体験を聞いた。
6月14日 長崎原爆協賛会。秋月氏が「長崎原爆の二重性」講演
中国人被爆者初慶芝さんが長崎市長を表敬訪問、祈念像に献花。
6月16日 長崎の市民団体が長崎市非核宣言推進実行委員会を設立、市に宣言を求める署名運動をすることを決定した。
6月23日 大阪松原四中と長崎市西浦上中とが交流会をした。
7月3日 長崎医学部原爆資料センターが一般公開され好評。
7月4日 長崎平和推進協会「ナガサキ平和のあゆみ」発行。
7月5日 長大「平和を考える」公開講義が始まった。
7月10日 長崎総科大で「ソ連原発事故の教訓」シンポジウム開催。
7月12日 長崎市の市民平和大行進、爆心地をスタート。
7月13日 県被爆二世教職員会が結成。長崎如己の会が発足。
7月14日 反核平和の火リレーが爆心地を出発した。
7月19日 平和年シンポジウムソ連原

発事故をテーマにして開催。
「沖繩戦・未来への証言」の上映とまよなかしんやコンサートが長崎市内で行われた。
7月20日 「反核・戦艦ニュージャージー寄港阻止集会」が佐世保市で開かれた。
7月22日 絵本「原子野の汽笛」発行（坂口便・あさき書店）
7月25日 在韓被爆者の渡日治療第三陣が長崎原爆病院に入院。
ボーランドからのモニュメントが平和公園に据えつけられた。
7月26日 長崎市主催平和年シンポジウム「世界平和と長崎の役割」開催。
夏草の川原（上野誠）



韓国・陝川より



川支部長 安 永千

『イルボンサラムへ』五十冊到着しました。ありがとうございます。皆で感謝しながら、本の内容を心にききんでいます。

松尾松良さん（もと福岡県被団協代表）の計報を読みました。心からご冥福を祈ります。松尾さんのやさしい声、しずかな心を思い出しています。お気の毒です。

ことしの八月六日には私も広島での慰霊祭に参席する予定です。長崎を訪ねましたらお電話いたします。またお会いする日まで、さようなら。（慶尚南道陝川郡）

がんばって下さい



兵庫県 河北満智子

『イルボンサラムへ』を拝読させていただき、ほとんど放置されている在韓被爆者の方々の思いがひしひしと胸に伝わってきました。

インド人平和運動家

プレム氏と語ろう

保谷市 山崎千恵子

はじめまして。私はこの六月に来日したインド人の平和運動家、プレムクマール氏を個人的にお手伝いしているものです。

プレムクマール氏は一九五六年インドのアメダバッド（ガンジーがこよなく愛し三五年間暮らした土地）生まれ。西部のグジャラト大学で六学科で学士取得。在学中から核廃絶と核の平和利用研究に従事。その中から宗教、人種、性別、国家間利害、貧富の差が作りだす人間のしきりに気づき、それをとり除く手段としてまず歩くことから始めました。

ヨーロッパ十一カ国とアメリカを歩き、各地で熱烈な歓迎をうけました。予定キロ数一万七キロ約一五〇〇日。「武器を全廃しただけでは平和はこない。一人一人の憎悪と偏見を捨て去らねば」と語りつづけています。

六月二十八日広島を出発、長崎の原爆の日にもむけて行進中です。行進中の宿泊先、食事を提供して下さる所、彼を囲んで話しあえる場所を探しています。どんな小さな集まりでもかまいません。ボランティア通訳も。連絡先は左記まで。（保谷市）

NACへあなたの心を



宝塚市 北浦葉子

NAC（ネバーアゲインキャンペーン）については「証言」や「通信」でもたびたびとりあげていただき感謝しています。

「日本人ボランティア（平和行脚者）」をたくさん送ってほしい」という声に応えてこの春、六人のNAC民間大使が選出されました。

六人は今秋の渡米を前に研修と準備に追われています。私たちはできるだけ多くの資料と十分な研修を供給したいとねがっています。これは一般民間ボランティアによる運動ですので、残念ながらその経済力がありません。そこで、最低限左記のものを用意したいとカンパ活動を始めました。皆さまのご理解とご支援を心からおねがいいたします。

（必要資料）
映画「ピカドン」「にんげんをかえせ」スライド「Hiroshima Testimony」「現代の日本」写真「ヒロシマ・ナガサキ」写真集「JAPAN」
（必要経費）

その他、必要書籍購入費を含めた資料代総額一人三〇万円、広島・長崎での 研究修費一人五万円、アメリカ側事務局等との諸外費、日本からの援助活動費等、総計最低二八〇万円が必要です。

（NAC 車中泊日同）
兵庫県宝塚市米谷一三三二、電話〇七九七・八七・一八九八、郵便振替、神戸五一五二六六六